

豊後高田市の文化財補遺編 「新指定の文化財」

平成29年度 新指定文化財

【国指定文化財】

- 天念寺耶馬及び無動寺耶馬

【県指定文化財】

- 田染荘の村絵図
- 富貴寺地藏石仏

【市指定文化財】

- 木造菩薩形立像
- 木造阿弥陀如来坐像附両脇侍菩薩立像
- 木造薬師如来坐像
- 金銅菩薩形立像
- 木造菩薩形坐像
- 木造十一面観音立像
- 道園猿田彦大神像庚申塔 附 青面金剛像庚申塔、猿田彦大神画像掛軸及び待上庚申講関係資料一式

【国登録有形文化財】

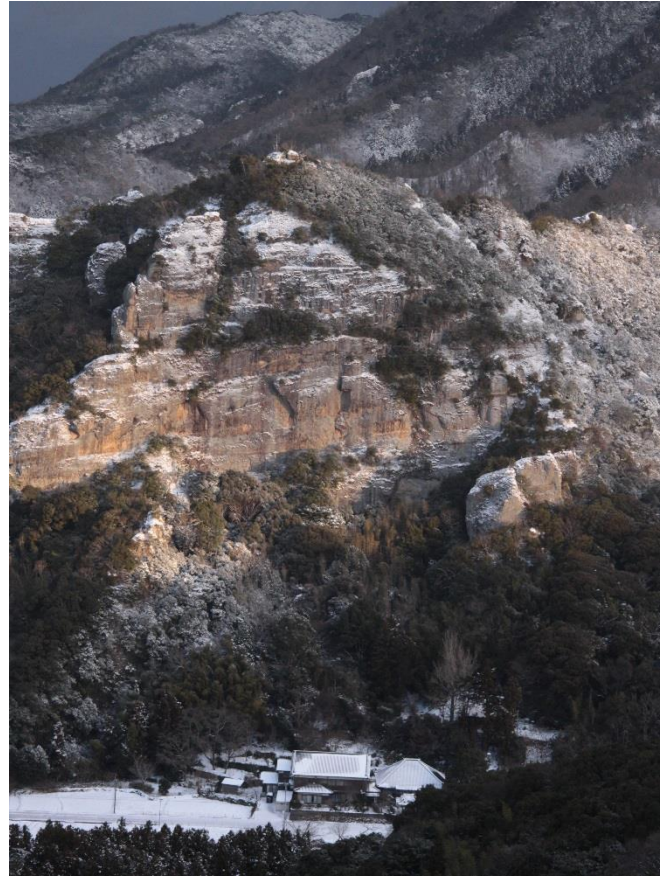
- 妙壽寺本堂
- 妙壽寺経蔵
- 妙壽寺鐘楼
- 妙壽寺中門
- 妙壽寺山門

天念寺耶馬及び無動寺耶馬

■名勝 ■指定日：平成29年10月13日 ■所在地：長岩屋・黒土 ■年代：—



天念寺耶馬



無動寺耶馬

六郷山寺院の修行の寺院として名高い天念寺及び無動寺の後背に聳える岩山の風致景観。両岩山に特徴づけられる屹立した様は、現中津市などに所在する耶馬溪になぞらえて、天念寺耶馬及び無動寺耶馬と呼ばれるようになった。

両耶馬は僧侶達の修行場として開かれた歴史を持ち、下から見上げて確認できる多くの岩屋・巡礼の祠・無明橋などは独特な風景を形成している。特に天念寺無明橋は幅1.2mのアーチ橋で大正時代に架けられたとされ、風致上の特徴を成し、10年に1度ほど行われる峯入りの際には最も注目される行程の1つである。それらは寺院境内の風格を高める「借景」的作用も有している。

江戸時代には、豊後三賢の1人・三浦梅園が天念寺を訪れ、詠んだ漢詩を大鳥居に刻んでいる（昭和16年の水害で上部は流され、基部と発掘調査で発見された柱上部のみが残存）ほか、観音霊場を巡る種田山頭火が天念寺耶馬から無動寺耶馬へと岩山を越え、「小耶馬溪とでもいひたい」と一帯の風景を評価をしている。

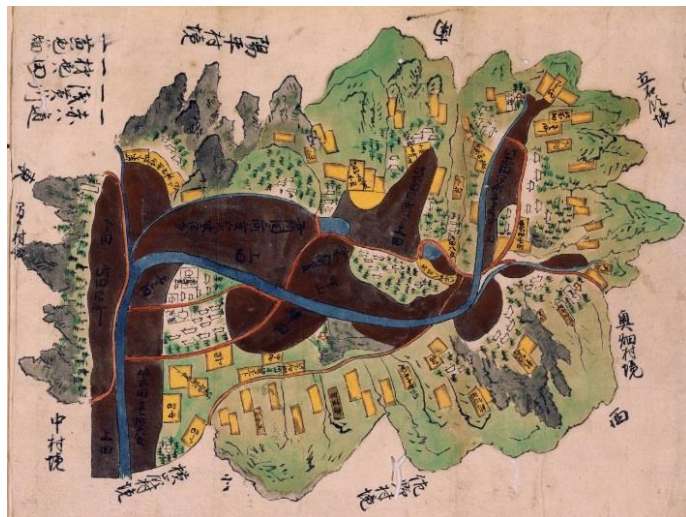
両耶馬の峯道は、峯入りによって連続性と有機的なつながりを持って存在している。天念寺と無動寺は直線距離では700mほどしか離れておらず、峯入りのルート上でも、天念寺から耶馬を越えて無動寺へと続いている。お互いの無明橋は、両耶馬を観賞する際の視点場としても機能しており、古来からの修行僧の視点を追体験できる。

島原藩領田染組村絵図

■有形 ■指定日：平成30年 2月 6日 ■所在地：歴博 ■年代：江戸後期

豊後高田市役所の田染支所などに残存していた13点の村絵図。原本は元禄2(1689)年に、島原藩によって作成されたものとされる。現存する本は、天保7(1836)年に村内の変更点を調査するために、各村の庄屋に村絵図が下された際に、手控えとして写された写本である。奥書の内容から、変更箇所の報告はなされなかったと考えられ、古文書や小地名の検討と合わせて、ほぼ江戸前期の村落の様子を示していると推定されている。

水田は柿色、畑は黄色、川は浅葱色、道は赤色で色分けされ、植生や岩峰といった周囲の風景も写実的に描かれている。



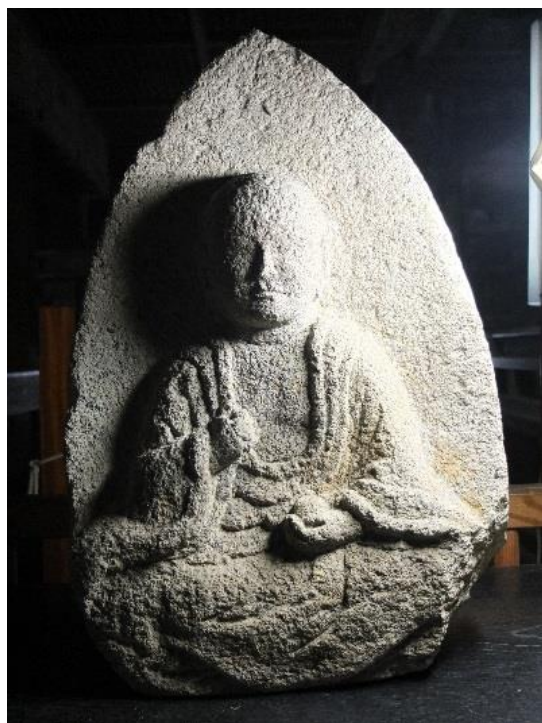
石造地藏菩薩坐像

■有形 ■指定日：平成30年 2月 6日 ■所在地：田染路 ■年代：南北朝

富貴寺大堂に安置される石仏。舟形光背に浮き出るように彫られており、左手には如意宝珠を持つ。やや風化しているが、端正な顔立ちや衣文にも細かい彫り口が見える。

背面には「応安元(1368)年〈乙月／一日〉願主王盛久」と陰刻されている。応安元年の紀年銘は、石仏としては県内最古のもので、指標として重要である。

元々本像は、其ノ田板碑の銘に見える「地藏堂(堀口地藏堂カ)」に関連した石仏とされ、南北朝時代頃から路地区で隆盛した時衆の講との関連も深いと考えられている。地獄道に堕ちた衆生を救済する地藏菩薩は、阿弥陀堂である富貴寺大堂に関する信仰と対称的な存在であり、江戸時代に富貴寺境内へと移動してきたと考えられる。



木造菩薩形立像

- 有形 ■指定日：平成29年4月28日
 ■所在地：加礼川 ■年代：平安後期
 像高101.2cm。檜材一木造。両腕先、足先、天衣の一部が欠損。長安寺収蔵庫内。
 尊名は不詳だが、腰高な立ち姿は、国東半島平安仏の趣きを十分に伝えている。



木造阿弥陀如来坐像 附 両脇侍菩薩立像

- 有形 ■指定日：平成29年4月28日
 ■所在地：加礼川 ■年代：鎌倉・南北朝時代
 像高88.2cm。檜材の寄木造。玉眼を入れる際の補修痕がある。
 整った像容から鎌倉時代の作と考えられる。安貞目録当時の本尊の1 軀と思われる。
 両脇侍菩薩立像は制作年代より本像の脇侍として制作されたものと推定される。



木造薬師如来坐像

- 有形 ■指定日：平成29年4月28日
 ■所在地：加礼川 ■年代：鎌倉時代
 像高25.5cm。着色後補。長安寺本堂。
 江戸時代の作とされていたが、整った顔立ち、的確な衣文、丁寧な内削りは古式である。光背・台座のつくりもよく、鎌倉時代の作と考えられる。



金銅菩薩形立像

- 有形 ■指定日：平成29年4月28日
 ■所在地：加礼川 ■年代：鎌倉時代

像高17.8cmと、かなり小ぶりの金銅像であるが、市内では中世の鑄造仏は珍しい。細部まで写実的な表現が行き届いており、鎌倉時代の作と推定される。

光背・台座後補。持物に蓮華。



木造菩薩形坐像

■有形 ■指定日：平成29年4月28日
 ■所在地：加礼川 ■年代：南北朝時代
 像高⑥56.0cm、⑤57.2cm。檜材寄木造。
 南北朝時代の作と推定され、長安寺に伝
 わる中世の仏像として貴重である。



木造十一面観音立像

■有形 ■指定日：平成29年4月28日
 ■所在地：鍛冶屋町 ■年代：鎌倉後期

像高88.3cm。
 檜材の寄木造。
 鍛冶屋町に所
 在する光厳禅寺
 は、元は光厳庵
 といって、絶崖
 宗卓が開いた円
 福寺の末庵であ
 る。そこに所在
 するこの像は創
 建当時のものと
 考えられる。
 整った顔立ち、
 細部のつくり等
 が極めて良く、
 市の鎌倉仏の代
 表と言える。

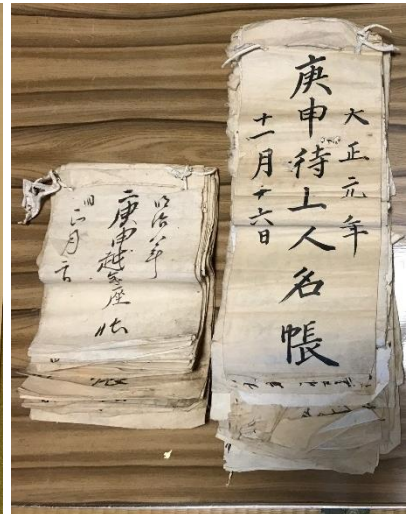


道園猿田彦大神像庚申塔

附 青面金剛像庚申塔、猿田彦大神画像掛軸及び庚申待上講関係資料一式

■有形民俗 ■指定日：平成29年4月28日 ■所在地：道園 ■年代：江戸中期

道園地区で行われる「まちあげ講」の舞台になる猿田彦大神像庚申塔と、それらに関
 連する青面金剛像庚申塔、猿田彦大神画像掛軸及び庚申待上講関係資料一式)。塔は宝
 暦3年に造立された事が銘・庚申待上次第巡帳の両方から確かめられ、背面から仏師板
 井判蔵の銘が確認でき、美術品としての価値も高い。持ち回り庚申塔は、国東半島に特
 徴付けられる庚申塔の形態で、地域の民俗学上重要である。



妙壽寺本堂

■有形 ■登録日：平成30年3月27日
■所在地：金谷町 ■年代：明治時代後期

木造平屋建、入母屋造、本瓦葺。帝室技芸員の佐々木岩次郎が設計したことが記録に残されている。意匠に優れ、桁行と梁間がそれぞれ20mを超える大規模な建築はまさに壮大優美であり、優れた建築技法で造立された上質な本堂建築といえる。



妙壽寺経蔵

■有形 ■登録日：平成30年3月27日
■所在地：金谷町 ■年代：江戸時代中期

本堂の南側に隣接して建ち、妙壽寺の諸堂の中で最も建築年代が古いとされる。内部には八角形の輪蔵が置かれている。入口や向拝の柱に彩色痕が確認される他、屋根の装飾や大壁の鰻絵など、精緻かつ壮麗な造作が施されており、出色の出来である。



妙壽寺鐘楼

■有形 ■登録日：平成30年3月27日
■所在地：金谷町 ■年代：江戸時代中期

本堂南東方に建つ。方一間、入母屋造本瓦葺。天井裏の墨書から建築年代が「宝暦11」(1761年)であることが分かっている。内部の折上格天井や、彫刻のつくり丁寧さと優美さがうかがえ、独特の意匠をみせている。



妙壽寺中門

■有形 ■登録日：平成30年3月27日
■所在地：金谷町 ■年代：江戸時代末期

本堂東方に建つ、間口4.5mの四脚門で、入母屋造、本瓦葺。規模が大きく、支輪には地紋彫を施し、獏・獅子・麒麟の木鼻を付けた壮麗な意匠の中門である。建立年代は和釘の使用と、虹梁彫刻の細部意匠から江戸末期と推定される。



妙壽寺山門

■有形 ■登録日：平成30年3月27日
■所在地：金谷町 ■年代：江戸時代中期

境内の東面を画する山門。間口3.5mの四脚門で、切妻造、本瓦葺。波を彫った大ぶりの板幕股の妻飾が特徴。中門よりは小ぶりながら、古式をよく留め、風格あるたたずまいをみせている。彫刻などの細部意匠から江戸時代中期の建築と推定される。

